



火山の噴火で、どんなものがふき出るの

溶岩、火山ガスなど

日本には、今でも活動している火山が、たくさんあります。火山が噴火するときには、火口からいろいろなものを、ふき出しますが、大きく分けて三つになります。

火山が噴火するときには、マグマという高温で、どろどろにとけたものが、ふき出してきます。火口からふき出したマグマや、それが冷えて固まったものを、溶岩といいます。噴火のときに、マグマにふくまれていた気体が、マグマの中で激しくあわだち、外に出てきます。これを火山ガスといいます。火山ガスは、大部分が水蒸気ですが、二酸化炭素や一酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素などがふくまれています。

火山の噴火のとき、溶岩や火口付近の岩石が、ふき飛ばされることがあります。これらを火山放出物といい、つづの大きい順に、火山岩、火山れき、火山灰に分けられます。

これらの火山灰や、火山れきなどが、速い速度で火山のしゃ面を流れると、火さい流となります。

水蒸気爆発

地下水が、マグマで熱せられてできた水蒸気や、マグマにふくまれていた水蒸気が、地下にたまります。このようにしてたまった水蒸気は、圧力（物をおしつける力）が、大きくなっています。この水蒸気が、まわりの岩石をつき破って、爆発を起こすことがあります。これを水蒸気爆発といい、日本で見られる噴火の4割をしめています。

（監修・国司 真）

